

# 実験動物医学

Japanese Association for Laboratory  
Animal Medicine (JALAM)

日本実験動物医学会  
事務局 (株)アドスリー内  
〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37  
TEL. 03-5925-2840, FAX. 03-5925-2913  
URL <http://jalam.jp/htdocs/>



## 主な内容

- 巻頭言..... 2
- 学会案内 (学術集会委員会) 第68回日本実験動物学会総会..... 3
- JCLAM (JALAM共催) ウェットハンド研修会報告..... 4
- JCLAM (JALAM共催) ウェットハンド研修会案内..... 5
- 2020-2021年度総会開催報告 ..... 6
- 理事会報告.....10
- 委員会報告
  - 1. 実験動物学教育委員会 .....12
  - 2. 学術集会委員会 .....12
  - 3. 情報・編集委員会 .....12
  - 4. 研修委員会 .....12
  - 5. 前島賞選考委員会 .....12
  - 6. 実験動物法規等検討委員会 .....13
- 日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM)
  - 1. 実験動物医学専門医協会 (JCLAM) からの挨拶.....14
  - 2. 2020-2021年度総会開催報告.....16
  - 3. 理事会報告 .....19
  - 4. 2021-2022年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新  
スケジュール .....20
  - 5. IAACLAM .....21
- JCLAM委員会報告
  - 1. 総務部 .....22
  - 2. 認定委員会 .....22
  - 3. 試験問題作成委員会 .....23
  - 4. 試験実施委員会 .....23
  - 5. 試験問題検討委員会 .....24
  - 6. 学術委員会 .....24
  - 7. 研修委員会 .....24
  - 8. 国際渉外委員会 .....25
  - 9. レジデントプログラム委員会 .....25
  - 10. 将来検討委員会 .....25
  - 11. 認定試験ワーキンググループ .....26
- 特集 .....27
- 事務局便り 会費納入状況とお願い.....29
- 編集後記.....30
- 日本実験動物医学会 ホームページ.....31

# 巻 頭 言

「会長挨拶」

北里大学 獣医学部

佐々木 宣哉

初めに、前会長の安居院高志先生には、3期9年間の長きに渡り、本会の発展のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、任期満了で退任されました前理事の久和茂先生、下田耕治先生、前監事の黒澤努先生にも、この場を借りて御礼申し上げます。

昨年10月、第1回理事会にて日本実験動物医学会会長に選任されました。ご推挙いただきましたからには未熟者ではございますが、当会第4代会長としてご期待に添うよう精一杯努めたいと覚悟を新たにしております。歴代会長の前島一淑先生(1993-2002年度)、笠井憲雪先生(2002-2011年度)、安居院高志先生(2011-2020年度)のようにパワフルに学会を牽引できるタイプの人間ではありませんので、会員の皆様へはお手間をお願い致しますが、ご理解、ご協力の程何卒宜しくお願い致します。

本会は実験動物の健康・医学ならびに福祉に関する研究、教育の推進、及びその普及を目的として、1993年4月1日に日本実験動物研究会として発足し、今年で28年目を迎えました。私事で恐縮ですが、獣医学部6年生の時には、自分の研究テーマに合った分科会が無く、場違いな他の分科会で発表せざるをえなかったのですが、本会の発足を聞いたときの嬉しさと期待感は今でも記憶に残っております。現在、会員数が408名となり、獣医学会としては2番目に大きな分科会になりました。また半数(206名)が企業人という特色ある分科会でもあります。会員の諸先生方のご尽力のおかげで、本会の活動は、実験動物学や実験動物医学の研究の推進はもとより、獣医大学生を対象とした教育から、実験動物医学専門医育成に関わる教育プログラムの企画・提供、動物福祉の普及や関係法規の策定に至るまで多くの分野に広がっていったことは、ご承知のとおりであります。また、本会会員の三好一郎先生が、実験動物学会の理事長を、杉山文博先生が国動協会会長を、黒澤努先生が、World Veterinary Associationの評議員を務められ、各会を牽引されております。

5月の第68回実験動物学会総会(大会長 今井良悦先生)は、Web開催となり、JALAM主催のシンポジウムは中止となりましたが、多数の良い企画がありますので、是非、ご参加して頂けますと幸いです。また本大会では、長年、本会の発展に貢献して頂きました、浦野徹先生、八神健一先生が功労賞を、若手では佐々木隼人会員が奨励賞を受賞されます。9月の第164回獣医学会学術集会(酪農学園大)は、現在の所、On siteの予定ですが、流行状況等によりWeb開催となる場合がございます。現在、多くの学会やセミナーがオンライン開催となり、ニューノーマルとなりました。オンラインの学会は盛り上がりや欠くという意見もありますが、繰り返し視聴できる、On siteの学会ではできなかった複数のセッションを視聴できる等、多くのメリットも有しております。On lineになりましても、多くの先生が、学会に参加する、もしくは演題を発表されることで、学識向上、自己研鑽、他の先生との交流に役立てて頂きたいと存じます。

今後は、実験動物医学分野の学術発展に加え、他の学術分野との連携、国際連携を進めるなど新たな事業を模索し、さらなる向上に貢献することはもとより、次世代に繋がるよう学会運営に配慮したいと考えています。ぜひ会員各位のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

---

---

# 学会案内

(学術集会委員会)

---

---

## 日本実験動物学会関連の日程

### 第68回日本実験動物学会総会

会 期：2021年5月19日（水）～ 21日（金）

会 場：オンライン開催

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況からオンライン開催となりました。  
詳細については以下のHPでご確認ください。

<https://www.jalas.jp/68jalas/index.html>

コロナウイルス感染の拡大を受け、日本実験動物学会総会にて開催を予定していた実験動物医学シンポジウム、JCLAMフォーラム、関連会議は中止になりました。

## JCLAM（JALAM共催）ウェットハンド研修会報告

新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度のウェットハンド研修会は2回とも中止となりました。受講予定の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。

2020年度（令和2年度）日本実験動物医学専門医協会ウェットハンド研修会

第一回目：開催中止

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

日程：2020年5月30日（6月21日）（土）10：00～17：00

2020年5月31日（6月22日）（日）9：00～16：40

場所：北海道大学 獣医学研究院 獣医学部門（〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目）

アクセス：<https://www.vetmed.hokudai.ac.jp/access/>

定員：20名

第67回日本実験動物学会総会の中止さらには国内では緊急事態宣言の発出がなされました。2020年度第一回ウェットハンド研修会の開催につきましては、開催地の選定および参加希望者のアンケートによる日程の調整など対応を図ってまいりました。

しかし、受講者および関係者の健康・安全面を第一に考慮し、本研修会の開催を断念中止と決定させていただきました。

第二回目：開催中止

日程：2020年8月27日（木）

2020年8月28日（金）

場所：岡山理科大学 今治キャンパス（〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3）

定員：20名

新型コロナウイルス感染症の影響により、第二回ウェットハンド研修会も中止となりました。

## JCLAM（JALAM共催）ウェットハンド研修会案内

2021年度（令和3年度）日本実験動物医学専門医協会ウェットハンド研修会「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」は2回開催を予定しています。

新型コロナウイルス感染症の第3波の中で、東京都、神奈川県、千葉県および埼玉県が緊急事態宣言延長という環境下で計画を立てております。

他の学会や研修会がWeb開催の状況ですが、本年度第1回の研修会はWeb開催 + 現地開催、第2回の研修会は今のところ開催を検討中です。

今後の感染状況を注視しつつ、開催の是非を判断したいと思います。

### 第1回：Web開催 + 現地開催

開催日時：2021年5月22日（土）、5月23日（日）、5月30日（日）

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

講義：2021年（令和3年）5月22日（土） 9:00～17:00 講義（Zoom）

- ・概論Ⅰ
- ・概論Ⅱ
- ・イヌ、ブタの麻酔
- ・イヌ、ブタの疾病1
- ・イヌ、ブタの疾病2

演習：2021年（令和3年）5月23日（日） 9:00～12:00 動物実験計画書審査演習（Zoom）

- ・講義 動物実験計画書審査について
- ・各班審査演習、総合討論

実習：2021年（令和3年）5月30日（日） 9:00～12:00（A班）、14:00～17:00（B班）

場所：北海道大学獣医学研究院（〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目）

一班最大10名を予定

- ・イヌとブタの吸入麻酔実習

申込みは、3月19日午前10時から、会員用HPより申込みを受け付けます。

締切りは3月末日としますが、募集人員に達した段階で終了いたします。

参加希望者には、新型コロナウイルス感染症の予防のため、実習直前のPCR検査をお願いすることといたします。実習当日に発熱、咳、くしゃみ（花粉症を除く）等の症状のある方は受講をご遠慮して頂きます。

募集人数：最大20名

研修費：30,000円

### 第2回 開催

開催方式、日時、場所 募集人員は未定です。

第164回日本獣医学会学術集会の前後で開催を検討中ですので、改めて連絡します。

# 2020-2021年度総会開催報告

2020-2021年度総会は、2020年10月5日（月）から11日（日）の間、ホームページ上で開催、会員からの承認を行ないました。

総会次第	
議 事	
[1] 理事・監事の任命	[5] 2020-2021年度予算案
[2] 2019-2020年度事業報告	[6] 来年の学会エクスカージョン
[3] 2019-2020年度決算報告	[7] その他
[4] 2020-2021年度事業計画	
報告事項	

## 2017-2018～2019-2020年度役員（理事・監事）

会長	安居院高志（北海道大学） （渉外担当理事兼任）	理事	下田 耕治（慶應義塾大学）
副会長	池 郁生（理化学研究所）	理事	鈴木 穂高（茨城大学）
理事	角田 茂（東京大学） （会計・事務局担当）	理事	古市 達哉（岩手大学）
理事	久和 茂（東京大学）	理事	森松 正美（北海道大学） （庶務担当）
理事	佐々木宣哉（北里大学）	監事	黒澤 努（鹿児島大学）
		監事	橋本 道子（アステラス製薬）

## 2020-2021～2022-2023年度役員（理事・監事）

会長	佐々木宣哉（北里大学） （渉外担当理事兼任）	理事	鈴木 穂高（茨城大学）
副会長	池 郁生（理化学研究所）	理事	古市 達哉（岩手大学） （庶務担当）
理事	大沢 一貴（長崎大学）	理事	森松 正美（北海道大学）
理事	岡村 匡史（国際医療センター） （庶務担当）	理事	横須賀 誠（日本獣医生命科学大学）
理事	角田 茂（東京大学） （会計・事務局担当）	監事	安居院高志（北海道大学）
		監事	橋本 道子（アステラス製薬）

### 【 前島賞 】

前島賞選考委員会において厳選な選考の結果、下記の候補者が決定され、理事会で承認された。尚、表彰式は来年度の総会で執り行う。

受賞者：高橋 悠記 会員（北里大学獣医学部実験動物学研究室）

演題：腎近位尿細管上皮細胞における新規腎症増悪因子の解析

### 【 議 事 】

#### [1] 理事・監事の任命

理事・監事（2020-2021～2022-2023年度）をご覧ください。

#### [2] 2019-2020年度事業報告

##### 1. 2019-2020年度総会の開催

時期：2019年9月12日

場所：つくば国際会議場 第162回日本獣医学会学術集会

議事： 2018-2019 年度事業報告/ 2018-2019 年度決算報告/ 2019-2020 年度事業計画案/ 2019-2020 年度予算案/ 獣医学会所属団体経費配分に関連する予算使用の修正について/ 来年の学会とエクスカージョンについて/ 報告事項

## 2. 理事会の開催

### (1) 第 1 回理事会

時期：2019 年 9 月 10 日

場所：つくば国際会議場 第 162 回日本獣医学会学術集会

出席者：安居院、池、角田、久和、佐々木、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、黒澤、橋本（以上監事）

### (2) 第 2 回理事会

時期：2020 年 4 月 24 日～6 月 15 日

場所：理事会メーリングリスト（ML）を用いた会議

出席者：安居院、池、角田、久和、佐々木、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、黒澤、橋本（以上監事）

## 3. 学術集会委員会

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：岡村匡史（副委員長、国際医療センター）、北村 浩（酪農大）、花木賢一（感染研）、佐々木隼人（北里大）、越後谷裕介（日大）、小久保年章（放医研）、綾部信哉（理研）

(1) 随時、ML を使用し、今後の実験動物医学シンポジウムについて検討した。

(2) 第 162 回日本獣医学会学術集会開催期間中、2019 年 9 月 12 日に委員長が日本獣医学会プログラム委員会に出席した。

(3) 前回委員会から今回委員会までの間に ML で第 67 回日本実験動物学会総会ならびに第 162 回日本獣医学会学術集会における JALAM シンポジウム内容等について検討し、準備を進めた。実験動物学会は新型コロナウイルス感染拡大のために誌上開催となったため、これに関する抄録掲載等は取り止めることとした。

(4) 下記の通り、教育講演・シンポジウムを企画・開催した。

第 162 回日本獣医学会学術集会

JALAM シンポジウム「先端生体イメージング技術が切り拓く動物実験の新たな可能性」

時期：2019 年 9 月 12 日

場所：つくば国際会議場

## 4. 情報・編集委員会

委員長：鈴木穂高（茨城大）

委員：伊藤麻里子（副委員長、名大）、綾部信哉（理研）、大沼健太（日本たばこ産業）、和穎岳（ヤクルト中央研）、明貝俊彦（岡山理大）、近藤友宏（大阪府大）

(1) JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」No. 53（2019. 8）および No. 54（2020. 4）を編集し、本学会ホームページ（HP）に掲載した。

(2) 本学会一般公開 HP を jalam.jp ドメインで管理運営し、随時、内容を更新した。

(3) JALAM-ML(jalam@umin.ac.jp)および会員 HP (<http://jalam.jp/htdocs/>)を管理運営した。

(4) 第 162 回日本獣医学会学術集会開催期間中、2019 年 9 月 10 日に JALAM 情報・編集委員会を開催した。

## 5. 研修委員会

委員長：久和 茂（東大）

委員：中村紳一郎（副委員長、麻布大）、岡村匡史（国際医療研究センター）、倉岡睦季（日獣大）、小久保年章（放医研）、今野兼次郎（ボゾリサーチセンター）、高木久宜（日本エスエルシー）、林元展人（実中研）、藤澤彩乃（東大）

第 162 回日本獣医学会に合わせ、2019 年 9 月 8、9 日にウェットハンド研修会「I. げっ歯類およびウサギの獣医学的管理」を実験動物中央研究所（川崎市）で共催した。受講者は 25 名。また、第 1 回委員会を 9 月 10 日につくば国際会議場で開催した。

## 6. 実験動物学教育委員会

委員長：古市達哉（岩手大）

委員：横須賀 誠（副委員長、日獣大）、安居院高志（北大）、浅野 淳（鹿児島大）、伊豆弥生（岡山理科大）、越後谷裕介（日大）、大杉剛生（酪農大）、岡田利也（大阪府大）、角田 茂（東大）、木村 透（山口大）、久和 茂（東大）、佐々木宣哉（北里大）、佐々木隼人（北里大）、佐藤雪太（日大）、竹内崇師（鳥取大）、田中あかね（東京農工大）、塚本篤士（麻布大）、富岡幸子（鳥取大）、中村紳一郎（麻布大）、森松正美（北大）

- (1) 第 162 回日本獣医学会学術集会開催期間中、2019 年 9 月 10 日に委員会を開催した。
- (2) 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム有識者会議から、実験動物学のコア・カリキュラムに関する問い合わせがあり、教育委員会として対応した。各委員の協力の下、実験動物学のコア・カリキュラムの改訂案作成や英訳を行った。

#### 7. 実験動物法規等検討委員会

委員長：下田耕治（慶應大）

委員：大沢一貴（副委員長、長崎大）、笠井憲雪（東北大）、武井信貴子（イナリサーチ）、横山政幸（武田薬品工業）

- (1) 第 162 回日本獣医学会学術集会において第 1 回委員会を開催した。
- (2) 「動物の愛護及び管理に関する法律」の改正等について、意見交換した。

#### 8. 前島賞・功労賞選考委員会

委員長：池 郁生(理研)

委員：三好一郎（副委員長、東北大）、小野悦郎（九大）、加藤啓子（京都産業大）、杉山文博（筑波大）、鈴木樹理（京大）、中村紳一郎（麻布大）、山中仁木（信州大）

第 162 回日本獣医学会学術集会における 2019-2020 年度 前島賞候補者の選考が 2019 年 9 月 11 日に行われ、下記の守屋大樹会員が候補者として報告された。翌日の総会で同会員が表彰された。

候補者：守屋大樹 会員（大阪大谷大学）

研究課題：腫瘍細胞死誘導時の抗腫瘍免疫増強に DAMPs 分子を介した腫瘍浸潤樹状細胞の所属リンパ節への移行促進が関与する

#### [3] 2019-2020 年度決算報告（別紙参照）

一般会計決算報告について  
会費納入状況について

#### [4] 2020-2021 年度事業計画（別紙参照）

#### 1. 総会

2020-2021 年度総会を 2020 年 10 月に会員メーリングリストにより行う。

#### 2. 学術集会委員会

- (1) 下記の教育講演・シンポジウムを企画・開催する。
  - A) 第 68 回日本実験動物学会における JALAM シンポジウムを企画する。
  - B) 第 164 回日本獣医学会における JALAM シンポジウムを企画する。

#### 3. 情報・編集委員会

- (1) JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」No. 55（2020. 8）および No. 56（2021. 4）を編集し、本学会ホームページ（HP）に掲載する予定。
- (2) 本学会 HP を改訂し、その内容を随時更新する。
- (3) 会員 HP (<http://jalam.jp/htdocs/>) を管理運営する。

#### 4. 研修委員会

2021 年 5 月の第 68 回実験動物学会に合わせウェットハンド研修会を共催予定である。

#### 5. 実験動物学教育委員会

- (1) 実験動物学教育委員会のメーリングリストを通して、意見・情報の交換を行う。

#### 6. 実験動物法規等検討委員会

- (1) 動物愛護管理法の改正に関する情報を収集する。
- (2) 動物愛護管理法関連法規等について、理事会から諮問された案件について検討し、その結果を理事会へ報告する。

#### 7. 前島賞・功労賞選考委員会

第 163 回日本獣医学会学術集会開催期間中に委員会開催予定。

#### [5] 2020-2021 年度予算案（別紙参照）

1. 一般予算について

#### [6] 来年の学会エクスカージョン

第 164 回日本獣医学会学術集会（酪農学園大学）に合わせてエクスカージョンを実施し、森松正美理事（北大）が幹事を担当する。



[7] その他

【 報告事項 】

1. 2019-2020 年度会員数

日本実験動物医学会 会員数 合計 411 名 (2020 年 7 月 31 日現在)

2. 2019-2020 年度入退者数(2019.8.1-2020.7.31 の異動分)

入会 32 名

退会 16 名 (会費滞納による退会 7 名)

---

---

# 理事会報告

---

---

## 2020-2021 年度 第 1 回日本実験動物医学会理事会議事録

日 時：令和 2 年 9 月 2 日（水）9:00～11:00

場 所：Zoom によるオンライン会議

出席者：安居院、池、角田、久和、佐々木、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、黒澤、橋本（以上監事）、大沢、岡村（新理事候補者）、横須賀（新理事候補者（会長指名理事、議題 2 より参加））

欠席者：なし

### 議題

#### 1. 新役員の承認

下記の新役員が提案され、承認された。

会長 佐々木宣哉

副会長 池 郁生

渉外 佐々木宣哉（兼任）

庶務 岡村匡史、古市達哉

会計・事務局 角田 茂

学術集会委員会委員長 岡村匡史（兼任）

研修委員会委員長 森松正美

実験動物学教育委員会委員長 会長指名理事

実験動物法規等検討委員会委員長 大沢一貴

前島賞選考委員会委員長 古市達哉（兼任）

情報・編集委員会委員長 会長指名理事

監事 安居院高志、橋本道子

引き続き佐々木新会長より、会長指名理事として下記の役員が提案され、承認された。

鈴木穂高（情報・編集委員会委員長）

横須賀 誠（実験動物学教育委員会委員長）

#### 2. 総会資料の確認

森松庶務担当理事より活動報告及び活動案が、角田会計担当理事より会計報告及び予算案が提示され、若干の修正を条件として承認された。

総会は JALAM ML を利用して行うこととなった。承認に関しては、情報・編集委員会がホームページに承認のページを開設する。

#### 3. その他

角田事務局担当理事より 19 名の 3 年間会費未納会員が提示され、全員の自然退会が承認された（後日 1 名が会費を納入したため、自然退会は 18 名となった）。

### 報告事項

1. 安居院会長より、獣医学会理事会が下記の 2 点について検討していることが報告された。

- ・来年度の獣医学会支援費を請求する際、口座に100万円あるいは150万円以上残金がある所属研究団体は支援を受けられないようになること。
- ・所属研究団体独自の賞について、獣医学会として内閣府に届けられるよう整理する予定であること。

以上

## 2020-2021 年度臨時理事会議事録

日 時： 2020年10月2日（金）9:18～13:55

場 所： MLによるオンライン会議

出席者： 安居院、池、久和、佐々木、角田、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、黒澤、橋本（以上監事）

### 議題

#### 1. 前島賞受賞者の決定について

池 前島賞・功労賞選考委員会委員長より選考委員会での審議結果が報告され、下記の通り受賞者を決定した。

高橋 悠記 会員（北里大学）

#### 受賞課題

「腎近位尿細管上皮細胞における新規腎症増悪因子の解析」

#### 2. 表彰について

第164回日本獣医学会総会における日本実験動物医学会総会で行う予定であるが、総会開催については流動的であり、実施については次期委員会ならびに新理事会で審議する。

#### 3. その他

一連の成果を数名の演者が分担する発表にそれぞれ同じ点数を付する採点は、候補者選考への影響が大きい。そのような場合でも同点を付けない配慮を次期委員会への申し送りとしたいとの要望が池委員長からあった。

以上

---

---

# 委員会報告

---

---

## 1. 実験動物学教育委員会

委員長：古市達哉（岩手大）

委員：横須賀 誠（副委員長、日獣大）、安居院高志（北大）、浅野淳（鹿児島大）、伊豆弥生（岡山理科大）、越後谷裕介（日大）、大杉剛生（酪農大）、岡田利也（大阪府大）、角田茂（東大）、木村透（山口大）、久和茂（東大）、佐々木宣哉（北里大）、佐々木隼人（北里大）、佐藤雪太（日大）、竹内崇師（鳥取大）、田中あかね（東京農工大）、塚本篤士（麻布大）、富岡幸子（鳥取大）、中村 紳一朗（麻布大学）、森松正美（北大）

- (1) 実験動物学教育委員会メーリングリストを利用して、講義・実習に関する意見交換を行った。

## 2. 学術集会委員会

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：岡村匡史（副委員長、国際医療センター）、北村浩（酪農大）、花木賢一（感染研）、佐々木隼人（北里大）、越後谷裕介（日大）、小久保年章（放医研）、綾部信哉（理研）

コロナウイルス感染の拡大を受け、日本実験動物学会総会にて開催を予定していた実験動物医学シンポジウムを中止にした。

## 3. 情報・編集委員会

委員長：鈴木穂高（茨城大）

委員：伊藤麻里子（副委員長、名大）、綾部信哉（理研）、近藤友宏（大阪府大）、長沼佑季（アステラス製薬）、廣瀬直毅（京大）、和颯岳（ヤクルト）、

- (1) JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」No. 55（2020. 8）を編集し、本学会ホームページ（HP）に掲載した。
- (2) 本学会 HP を改訂し内容を随時更新した。
- (3) JALAM-ML(jalam@umin.ac.jp)および会員 HP (<http://jalam.jp/htdocs/>)を管理運営した。

## 4. 研修委員会

委員長：久和 茂（東大）

委員：中村紳一朗（副委員長、滋賀医科大）、岡村匡史（国際医療研究センター）、倉岡睦季（日獣大）、小久保年章（放医研）、今野兼次郎（ボゾリサーチ）、高木久宜（日本エスエルシー）、林元展人（実中研）、藤澤彩乃（東大）

- (1) コロナ禍のため、ウェットハンド研修会は中止になった。
- (2) コロナ禍のため、JALAM研修委員会は開催されなかった。

## 5. 前島賞選考委員会

委員長：池 郁生（理研）

委員：三好一郎（副委員長、東北大）、小野悦郎（九大）、加藤啓子（京都産業大）、  
鈴木樹理（京大）、杉山文博（筑波大）、中村紳一郎（滋賀医大）、山中仁木（信州大）

- (1) 第163回日本獣医学会総会は初のWeb開催だったため、今回の前島賞選考では、各前島賞選考委員が総会期間中に採点し、採点表を2020年9月30日までに委員長へ提出する形態を取った。委員長は採点を集計し、各委員にて集計結果を確認後、2020年10月1日午前11時からZoomによるオンライン委員会を開催した。Zoom委員会開催は角田 茂理事（東大）に協力を依頼し、角田理事は委員会にオブザーバー参加した。

## **6. 実験動物法規等検討委員会**

委員長：大沢一貴（長崎大）

委員：下田耕治（副委員長、元慶應大）、笠井憲雪（東北大）、黒木宏二（JT）、武井信貴子（イナリサーチ）

- (1) 実験動物関係の組織・委員会活動について情報を収集する。
- (2) 国内での情報発信のあり方等について情報提供に協力する。

---

---

# 日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM)

---

---

## 1. JCLAMからの挨拶

日本実験動物医学専門医協会  
会長 黒澤努

### JCLAMの歴史

JCLAMの母体であるJALAMは1993年4月1日に「実験動物医学研究会」として発足した。それは実験動物界での獣医師の役割について考え、それを議論する場を作るとというのが一つの目的であったとされている。

1996年に現在の日本実験動物医学会（JALAM）が研究会から名称変更したが、その時に認定制度検討委員会も発足している。認定制度には紆余曲折もあったが関係者の努力により、1999年3月25日に31名の認定獣医師が誕生したのである。3年間で58名が創立認定獣医師として誕生した。ファウンダーの努力の末、2002年3月には最初の資格審査と筆記試験による3名の獣医師が認定されたのである。

我が国に専門医制度（当時は認定制度）ができた年にお手本としたACLAMに日本にも同様の専門医ができたことを米国の専門医会開催時に報告演説を行った。これが大変評判が良かったようである。さらに欧州でも実験動物医学専門医の認定制度の検討が始まっていたのである。

欧州に専門医制度が立ち上がった2000年初頭に、欧州から発言があり、米国とともに国際実験動物医学専門医協会を設立しようということとなった。とくに反対する理由も見いだせないどころか、我が国の専門医制度も国際的に認めてもらえる良い機会と考え、積極的に設立に賛同した。こうした世界実験動物医学専門医協会（IACLAM; International Association of Colleges of Laboratory Animal Medicine）が2005年に設立された。

しかし、JALAMがIACLAMのメンバーとなったことで思わぬ出来事が発生した。JALAMは日本獣医学会の分科会であり、純粋な学術団体である。その会員資格はとくに獣医師であることを必要とせず、実際獣医師でない会員もJALAMには存在し、現在も活躍されている先生方がいらっしゃることは皆さんよくご承知のことと思われる。しかし、ECLAM, ACLAMともに専門医は獣医師に限っていることから、我が国の専門医制度に疑問が投げかけられたのである。そこで国際的整合性を図るために、日本実験動物医学専門医協会を当時専門医としてすでに認定されていた獣医師で設立した。これが現在のJCLAMである。

### 諸外国の動き

JCLAMの会員は当初日本の獣医師資格を持っている者に限定したことから、ほとんどが日本人である。IACLAMの活動を通じて国際性を持たせたいと考えていたが、幸い台湾籍の王先生がJCLAM会員となられたことで辛うじて、国際化は図られていた。さらに日本国籍ではあるがACLAMの会員に米国でなられた内橋先生がJCLAMの活動に興味を示してくれたことから、JCLAMの資格をIACLAMの会員協会員へ拡大することを企図し、現在は資格認定は行い会員登録をしていただくことでJCLAMの会員となれることを決定している。幸いこのお二人は現在も国際交流委員として活躍されている。このルールをIACLAMに報告したところ、早速複数の他の専門医協会の会員から入会したいと照会があった。さらにインドではAAALACの認証施設が増加しているが、その活動もあり、実験動物医学専門医の重要性が認識されるようになった。準備期間を含めて3年以上のご努力の末、まず準会員となり、ついで2021年1月のIACLAMの理事会にて正会員に認定された。さらにフィリ

ピンの実験動物獣医師の活動も活発となり、IACLAM への加入を目指していて、現在準会員となっている。同様の動きはメキシコ、ブラジル、イスラエルにもあるとされている。こうして IACLAM の活動は次第に拡大しているが JCLAM はその創立メンバーとしての貢献が求められている。現在 IACLAM の推薦を受けて WVA（世界獣医師会）の理事を務めている。WVA の定例の年一度の総会も対面では実施できず活動は停滞しているように見受けられる。しかし、遠隔会議システムが順調に機能していて、理事会活動、各種委員会活動は活発に行われている。目立つところでは獣医学教育の平準化、動物福祉への貢献、そして新型コロナウイルス禍もあり One Health の考え方の普及などが精力的に行われている。また遠隔診療の必要性和妥当性を各国政府に訴えかけようとの活動も行われている。現在会長は実験動物医学専門医 (ACLAM) であるが実験動物系の活動に目立ったものはない。しいて言えば WVA と他の国際機関の連携が強化され OIE, FAO, WHO などと共同で声明を出すことが多くなっているが、それらの中には実験動物が含まれるものがある。ただしその多くは各機関のこれまでの指針、綱領、国際標準、声明などを引用する形で実験動物も関連しているものと理解している。

### 新型コロナウイルス禍

新型コロナウイルス感染症は我が国だけの呼称で多くの国々では COVID-19 と呼ばれ、その原因ウイルスは SARS-CoV-2 と呼称される。わが国では 2 類感染症相当と指定され、新型インフルエンザ等対策特別措置法上、期限付きで新型インフルエンザ等とされている。この災厄についてはそれぞれの方々もまさに渦中にあり、情報も大量にお持ちと思われるので、その解説は控える。ただ新型コロナウイルス禍は JCLAM そして IACLAM の活動にも甚大な影響を与えたので若干説明をしておきたい。これまでは JCLAM の対面での活動は日本獣医学会時、ないし、日本実験動物学会時ならびにその周辺の時期に行われるのを通例としていた。しかし、両学会とも対面での開催を行わないこととなったため、JCLAM も対面での活動を停止した。とりわけ JCLAM の最重要課題である、専門医の認定試験、そのためのウェットハンド研修会は開催することが困難となり、一年間の凍結を行うこととなった。IACLAM はその理事会が通常でも電話会議等で行われていたことから、理事会活動はできたが、非公式の会議は AALAS などの国際的な学会時に行われていたがこれができなくなった。上記のように諸外国からも JCLAM 加入の照会があったが、これらも凍結せざるを得なくなった。しかし、一年凍結はしてみたもののいまだにその災厄は収まらず、新年度の活動をどのように行うかについて真剣な議論がなされている。Zoom などの遠隔会議システムも普及したこと、対面でなくとも可能な活動は引き続き行うこととなる。しかし、ウェットハンド研修会、試験そのものを遠隔で行ったことはなく現在その対応に追われている。ACLAM では認定試験を遠隔で行ったと報告されているが、これはそれまでに遠隔試験を行う業者が存在していて、その協力で開催したとのことである。5 月に開催される予定のウェットハンド研修会は座学、講義などはすべて遠隔で行うこととしたが、実際の実習は対面で行う必要があるとされ、受講人数をできるだけ絞って開催することとした。JALAM 会員で JCLAM メンバー希望者には多大なご不便をかけていることについては重々認識しており、会長として深くお詫び申し上げたい。一刻も早く今回の災厄が収まり通常の活動とりわけ認定関連活動を再開させたいと願っている。

### 理事選挙

本年は JCLAM 理事の改選年である。昨年の JALAM の理事選挙においても相当に新陳代謝が進んだと感じていて、私も長らく監事を務めたが、退任した。JCLAM はそもそも 58 名の創立認定獣医師（ファウンダー）により運営されてきたが、当初の理事等役員のほとんどはこれらのファウンダーが務めてきた。しかし、2002 年 3 月に最初の資格審査と筆記試験による 3 名の獣医師が認定され、その後順調に試験により認定された会員が増えてきた一方、ファウンダーの多くは第一線を退き、JCLAM から退会する方も増えてきている。これまで気がかりであった国際的なお付き合いも諸外国

の先生方の世代交代が進んだことから、個人的知己を得ていた方々は一線を退かれています。そこで JCLAM 創立以来会長を務めてきたが、そろそろ次世代にそのバトンを渡す時が来たと認識し、会長を退任することとした。JCLAM の会長は選挙で選ばれた理事の互選で決めてきたことから、理事選挙に出なければ自動的に会長を退くことができるので、次の理事選挙には立候補しない決断をした。年を取ってくるとまだまだやれそうだとか若い方には任せておけないという気分も時々出てきてしまうが、それこそが老害であろうと自分を諷めている。実際物覚えは悪くなるし、活動も機敏には行えないことも多くなってきた。唯一の老人のとりえの過去の事象の伝承も、記憶力が怪しくなり、いつ頃のことであったかが明確でなくなってきた。確かあの頃に起こった事象だと考え資料に当たってみると思いのほか、古い事象であったり、あるいは比較的最近の事象であったりすることが多くなってきている。

ということで老害をぶち撒いて多大なご迷惑をかけたことを深謝し、JCLAM 会長退任の弁としたい。長い間お付き合いいただき誠にありがとうございました。

## 2. 2020-2021年度総会開催報告

開催日時：2020年9-10月

開催形式：メール

新型コロナウイルスの影響により第163回日本獣医学会学術集会がweb開催となったため、JCLAM総会はメーリングリストで行った。すなわち、理事会から総会資料を会員に向けてメールで案内し、1週間の質問期間を設けた。

### <会長挨拶>

黒澤会長から、紙面で総会開催における挨拶が述べられた。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、JCLAMの最も重要な事業である認定審査に関わる全ての業務を凍結することになった。多くの方に迷惑と心配をかけることとなったが、ご理解いただきたい。

・新型コロナウイルス感染症の予防、治療の研究のために多くの動物実験が実施／計画され、世界各地で実験動物である霊長類および実験動物獣医師の不足が露わになった。今後も未知の感染症が発生することが予想されるが、実験動物専門獣医師の不足を起ささないようDJCLAMの数と質を十分なレベルに引き上げ、維持しなくてはならない。JCLAM会員の活躍を今後も大いに期待したい。

### <議事>

第1号議案 2019-2020年度JCLAM活動報告

JCLAMの1年間の活動内容が紙面で報告された。以下に概要を記載する。

1. 2019-2020年度実験動物医学専門医の認定

新規：11名（認定第178号～188号）、更新：17名

2. 実験動物医学専門医資格認定

・認定試験（2019年9月）の結果から新規専門医の合否判定を行った。

・新型コロナウイルス感染症の流行により、2020-2021年度の認定に関する活動は凍結とした。

3. 教育・研修会の開催



- (1) 第7回 JCLAM フォーラム
  - 第162回日本獣医学会学術集会：「日本における微生物モニタリングの現状」
- (2) 第8回 JCLAM フォーラム
  - 新型コロナウイルス感染症の流行のため誌上開催（認定審査の単位としない）。
  - 「実験動物医学の近未来－代替法とのハーモナイゼーション」
- (3) ウェットハンド研修会
  - ・第1回ウェットハンド研修会：2019年9月、実験動物中央研究所
  - 「I. げっ歯類およびウサギの獣医学的管理」
  - ・第2回ウェットハンド研修会：新型コロナウイルス感染症の流行のため凍結とした。

#### 4. その他委員会の活動

- (1) 試験問題作成委員会
  - ・2019-2020年度認定試験問題に関する業務（認定試験の採点、結果公開）を行った。
  - ・2020-2021年度認定試験問題の作成は、認定審査凍結のため次年度に継続する。
- (2) 試験問題検討委員会：
  - ・2019年9月実施の認定試験問題の検討作業を行った。
- (3) 国際渉外委員会
  - ①国際実験動物医学専門医協会（IACLAM）
    - ・WVAの理事選挙にIACLAM代表としてJCLAMから黒澤会長が立候補し、選出された。
    - ・情報の収集：IACLAMを通じて関連機関からの情報を入手し、JCLAM会員と共有した。
    - ・IACLAMプロジェクト：「げっ歯類のCO2による安楽死」過去の論文をレビューし、結果をまとめて論文化した。
    - ・IACLAMプロジェクト：「実験動物医学専門医のための教育と研修」必要な技能について各協会のRDD（Role Delineation Document）を比較し、現時点で概ねハーモナイズできていると判断した。JCLAMのRDDをWebsiteに掲示した。
    - ・新規実験動物医学専門医協会設立への協力：インドの協会設立のサポートを行った。
  - ②AAALAC International
    - ・AAALACの評議団体として、AAALACビジネス会議に参加した。
- (4) JCLAM活動のサポート（総務部）
  - ①IT活用
    - ・JCLAMの会員ページ、ML/掲示板の運用サポートを行った。
    - ・日本語および英語のホームページのメンテナンスを行った。
  - ②認定業務のサポート、JCLAM活動の記録
  - ③会計

#### 第2号議案 2019-2020年度決算報告

2019-2020年度の会計収支報告および決算報告を紙面で行った。会員からの質疑はなかった。

#### 第3号議案 2020-2021年度 JCLAM活動計画案

##### 1. 理事選挙

2021-2022年度からのJCLAM新理事の選挙を2021年5月頃に実施する。

## 2. 2020-2021 年度実験動物医学専門医の認定

新型コロナウイルス感染症の流行のため、専門医認定業務を1年間凍結する。

## 3. 2021-2022 年度実験動物医学専門医の認定スケジュール

審査申請書受付	2021年4月5日～2021年5月31日
資格審査結果通知	2021年8月2日
筆記試験	2021年9月6日 日本獣医学会（酪農学園大学）
合格発表	2021年11月8日
認定日	2021年12月25日

## 4. JCLAM フォーラムの開催

次回の第164回日本獣医学会で実施を立案中。

## 5. ウェットハンド研修会の開催

(1) 2021年5月頃に実施を立案中（日程、場所は未定）。

テーマ 「II. イヌおよびブタの獣医学的管理」

受講者数 20名程度、参加費用 30,000円（学生 15,000円）

## 6. 各委員会の活動の計画

(1) 認定委員会

- ・2021-2022年度更新・新規申請者の書類審査
- ・資格認定単位対象プログラムの認定

(2) 試験問題作成委員会

- ・2021-2022年度認定試験問題の公募
- ・2021-2022年度認定試験問題の作成

(3) 試験問題検討委員会

- ・2020-2021年度の認定試験の凍結のため、今期の活動計画はなし

(4) 試験実施委員会

- ・2021-2022年度認定試験受験者への案内送付

(5) 学術委員会

- ・第9回 JCLAM フォーラムのテーマ及び演者選定と実施

(6) 研修委員会

- ・2020-2021年度 ウェットハンド研修会の準備及び開催（上記5. を参照）
- ・2021-2022年度 ウェットハンド研修会の計画立案
- ・ウェットハンド研修に関する規程の作成

(7) 国際渉外委員会

① IACLAM

- ・Strategic Plan 作成とそれに基づく事業の推進

- ・他国の実験動物医学専門医協会設立への協力
- ・関連情報を入手するとともに、他協会の考え方（意見）を共有する。

②AAALAC Delegate

- ・ビジネス会議へ参加する： ビデオ参加。
- ・情報の入手。

(8) レジデントプログラム委員会

- ・レジデントプログラム案を作成し 2020-2021 年度制定の予定。

(9) 将来検討委員会

- ・中長期的な「めざす JCLAM 像」案を策定する。

(10) 認定試験レビューWG

- ・JCLAM の認定試験のあり方について検討を継続する。

(11) 総務部

- ・JCLAM 事業、各委員会活動、JCLAM 会員の活動を継続してサポートする  
(スケジュール管理、IT サポート、記録、会計等)

第 4 号議案 2020-2021 年度会計予算

2020-2021 年度の会計予算を紙面で報告した。なお、特記事項として、以下の 2 点が示された。

- ・2021 年 5 月に予定されているウェットハンド研修については実施計画が定まっていないため、収入および支出とも予算は修正される予定である。
- ・2020-2021 年度は理事選挙が行われる。また、JCLAM の要件で海外出張する場合の旅費等の補助については予算作成時点では予定がない。これらについては、必要があれば理事会の承認のもと予備費として計上した 200,000 円から必要額を使用することとする。

<質疑応答>

会員より、コロナ禍におけるウェットハンド研修および認定試験の開催方法について質問があり、理事会で協議のうえ「可能な限り専門医認定を行い、その条件となる 2021 年 5 月、9 月（次年度）のウェットハンド研修についても可能な限り実施する予定。対応の方法については、適宜アナウンスする。」とした。

そのほか回答書に併せて、総会資料に載せられなかった事項として、2020-2021 年度の試験問題作成委員会委員長に、鈴木智先生を任命することを報告した。

### 3. 理事会報告

新型コロナウイルスの影響により第163回日本獣医学会学術集会がweb開催となったため、面前での定期理事会は実施しなかった。

メールでウェットハンド研修および認定試験の実施について議論を行った。更に、ウェットハンド研修の実施方法についてzoomによるビデオ会議を開催した（ビデオ理事会：2021年2月26日18時~20時）。ウェットハンド研修では、動物の取り扱いに関する獣医学的ケアの研修は実技研修が必要、講義および実験計画書の審査の研修についてはビデオ会議でもよいと結論付け、理事会の議論の内容をもとに担当委員会で詳細を検討してJALAMに向けて早急にアナウンスを行うことになった。

## 4. 2021-2022年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

### (1) 対象者

2020-2021年度の専門医認定審査が凍結されたため、対象者が分かりづらくなっていますのでご注意ください。

【新規の審査申請】日本実験動物医学会（JALAM）の会員歴が3年以上であり [2018-2019年度までに会員になり、2020-2021年度分まで会費を納めていること]、JCLAM認定規則 ([http://plaza.umin.ac.jp/~jclam/\\_AAAAAA\\_/ja/pg779.html](http://plaza.umin.ac.jp/~jclam/_AAAAAA_/ja/pg779.html)) の別表1に規定された基準を満たしている方が対象となります。会員歴の年数はJCLAMの会計年度（8月から翌年7月）で計算します。

JALAMの会員歴及びJALAM会費の支払状況は、JALAMの会員ページの会員情報で確認可能です。JALAM会員ページにログインし、「管理」メニューからご自身の会員情報をご覧ください。具体的な操作方法は、[https://jalam.jp/htdocs/?page\\_id=594](https://jalam.jp/htdocs/?page_id=594)に掲載されています。

【更新の審査申請】2000年度、2005年度、2010年度および2015-2016年度に認定された専門医の方及び過去5年（審査凍結期間を除く）の間に更新をしなかった以下の方が対象となります。

2000年度認定	認定番号第046, 047, 049, 050, 056, 057号(6名)
2005年度認定	認定番号第065, 066(2名)
2010年度認定	認定番号第085(1名)
2015-2016年度認定	認定番号第131~134(4名)
未更新の方	認定番号第037, 126(2名)

### (2) スケジュール

審査申請書受付開始	2021年4月5日	(月)
審査申請書受付締め切り	2021年5月31日	(月)
審査期間	2021年6月14日	(月) ~ 7月30日 (金)
資格審査結果通知	2021年8月2日	(月)
筆記試験	2021年9月6日	(月) 日本獣医学会(酪農学園大学)
合格発表	2021年11月8日	(月)
認定料振込期限	2021年11月19日	(金)
認定日	2021年12月25日	(土)

### (3) 審査申請書の申請

別途JALAM会員(新規申請用)・JCLAM会員(更新審査用)に案内書を送付します。案内書に記載の内容をよくご理解のうえ、添付の審査申請書及び受験票に必要な事項を入力/記入し、その他必要な書類を添えて下記URLにアクセスし、2021年5月31日(月)までにアップロードしてください。

[https://jclam.jp/?page\\_id=290](https://jclam.jp/?page_id=290)

### (4) 審査料及び試験受験料の振込

新規審査を希望される方は20,000円(審査料10,000円+認定試験受験料10,000円)。更新審査を受けられる方は10,000円となります。ただし、更新審査を受けられる方においても、認定試験の受験が必要な場合は追加で10,000円をいただきます。審査料および試験受験料の振込は下記までお願いいたします。JCLAMの審査料等の振込先と

JALAM の年会費の振込先は異なりますので、注意してください。

☆郵便局（ゆうちょ銀行）から振替：

- ・金融機関： ゆうちょ銀行
- ・口座番号： 00110-2-418235
- ・加入者名： 日本実験動物医学専門医協会

☆他金融機関からの振込口座：

- ・金融機関： ゆうちょ銀行
- ・店名： 〇一八（読み ゼロイチハチ）
- ・店番： 018
- ・預金種目： 普通預金
- ・口座番号： 9227470

(5) 問い合わせ先

不明な点がある場合は JCLAM 総務部 (Secretary\_JCLAM@umin.ac.jp) までお問い合わせください。

## 5. IACLAM

(1) IACLAM メンバー協会

IACLAM のメンバー協会として、JCLAM、米国の ACLAM、欧州の ECLAM、韓国の KCLAM に加え、インドの ICLAM が加わり 5 協会となった。

現在の各協会の専門医数は、JCLAM 138、ACLAM 1060 名、ECLAM 70 名、KCLAM 50 名となっている。

(2) Strategic Plan

IACLAM の今後三年間の Strategic Plan（中期計画）を作成した。

① IACLAM 組織力の向上を図る

- ・NPO 組織とする。組織登録地域をアジア（日本）、欧州（英国）、北米（米国）で検討し、米国で NPO 登録することとした（2021 年中を目指す）。
- ・必要な書類の整備、資金的・構造的な安定性を強化する。

② 実験動物獣医師の資質を高め、動物の福祉に一層貢献する

- ・実験動物専門医が有すべき知識・能力について、IACLAM 内でハーモナイズする。
- ・メンバー以外の国の実験動物専門医協会設立をサポートする。
- ・専門医候補者の論文投稿に関するハーモナイズを行う。
- ・専門医のトレーニングに関するハーモナイズを行う。
- ・専門医認定試験に関するハーモナイズを行う。
- ・Web の改善等により、メンバー間のコミュニケーションおよび外部への情報発信を向上する。

(3) Training Task Force

各メンバー協会から出された RDD (Role Delineation Document) の内容をもとに比較を行い、IACLAM の基本的な考え方をまとめて投稿することになった。

---

---

# JCLAM委員会報告

---

---

## 1. 総務部

部長：花井幸次（沖縄科学技術大学院大学）

部員：桐原由美子（島根大）、大沼健太（日本たばこ産業）、小川祥司（大日本住友製薬）、  
武井信貴子（イナリサーチ）、浅野 淳（鹿児島大）、近藤友宏（大阪府大）、内山裕貴（BIKEN）

### 1) 活動状況

コロナウィルス感染症拡大のため面前会議は行わなかった。

- ・2020-2021年度の総会用資料の準備およびメールでの案内を行った。
- ・2021年9月の日本獣医学会学術集会におけるJCLAM関連会議開催のスケジュールおよび会場をJALAM研修委員会および学会事務局と相談。
- ・JCLAMの会員ページおよび公開HPについて、JALAMのHPと同じサーバー上で管理することを計画し、JALAMの情報編集委員会と協議を継続している。
- ・理事選挙の実施方法について協議し、JCLAM-HPの機能を用いて電子投票を行うこととした。
- ・そのほか、HPおよびMLのメンテナンス等を継続実施している。

## 2. 認定委員会

委員長：鈴木 真（沖縄科学技術大学院大学）

委員：岡村匡史（副委員長、国立国際医療研究センター）、中井伸子（N/A）、三好一郎（東北大）、  
横山政幸（武田薬品工業）、伊藤麻里子（名古屋大）、浅岡由次（塩野義製薬）

### 1) 委員会開催

- ・第163回日本獣医学会学術集会はWeb開催となったため、委員会を開催しなかった
- ・第68回日本実験動物学会総会も同じくWeb開催となるため、開催しない

### 2) 活動状況

- ・2020-2021年度の実験動物医学専門医認定事業は凍結されたため、資格認定に関する活動は行わなかった。研修会等への参加に関する単位確認及び申請についての問い合わせに回答した

### 3) 実験動物医学専門医資格認定単位対象プログラム

#### I. JCLAM フォーラム

第68回日本実験動物学会・総会はWeb開催のため、日本実験動物医学会主催のシンポジウムを開催しない。

#### II. ウェットハンド研修会J

#### 「II. イヌ及びブタの獣医学的管理」

日時：令和3年5月22日（土） 9：00～17：00 講義（Zoom）

令和3年5月23日（日） 9：00～12：00 動物実験計画書審査演習（Zoom）

令和3年5月30日（日） 9：00～12：00（A班）、14：00～17：00（B班）

場所：北海道大学獣医学研究院（〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目）

- ・新規申請者：必須分野の場合Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの3つから重複しない2つの受講が必須であり併せて20単位  
選択分野として再受講の場合は20単位/回
- ・更新申請者：第一分野として20単位  
(第二分野では申請できない)

### 3. 試験問題作成委員会

〈2020-2021 年度委員〉

委員長代行：鈴木智（大鵬薬品工業）

委員：高橋研（残留農薬研、上席副委員長）、瀬戸山健太郎（鹿児島大、副委員長）、石坂智路（第一三共）、小川祥司（大日本住友製薬）、倉谷沙綾（オリンパス）、嶋田圭祐（大阪大）、鳥越大輔（熊本大）、中村紳一朗（麻布大）、原田伸彦（東北大）、廣瀬直毅（理研）、富宿誠吾（防衛医大）、山中仁木（信州大、アドバイザー）、古市達哉（岩手大、アドバイザー）

〈2021-2022 年度委員〉

委員長：鈴木智（大鵬薬品工業）

委員：高橋研（残留農薬研、上席副委員長）、瀬戸山健太郎（鹿児島大、副委員長）、石坂智路（第一三共）、小川祥司（大日本住友製薬）、倉谷沙綾（オリンパス）、嶋田圭祐（大阪大）、鳥越大輔（熊本大）、中村紳一朗（麻布大）、原田伸彦（東北大）、廣瀬直毅（理研）、富宿誠吾（防衛医大）、山中仁木（信州大、アドバイザー）、古市達哉（岩手大、アドバイザー）

#### 1) 委員会開催

2020-2021年度の委員会改選凍結をうけ、2021-2022年度も同体制にて委員会活動を継続。コロナ感染対応のため、メールベース及びメーリングリストを利用した試験問題検討及び委員会活動を実施している。

#### 2) 活動報告

- ・2020-2021年度専門医試験として継続作成していたものを、2021-2022年度専門医試験問題として継続中。
- ・公募問題の募集を実施（2021年3月1日）。
- ・公募問題の委員会検討及び問題提出者への一次フィードバック済み。現在、修正対応を実施中（2021年3月29日現在）。

### 4. 試験実施委員会

委員長：池田たま子（新潟県保健環境科学研究所）

委員：伊藤拓也（旭川医大）

#### 1) 委員会開催

2020-2021年度の認定試験の凍結のため、今期の活動計画はなし。

#### 2) 活動状況

2020-2021 年度の認定試験の凍結のため、今期の活動計画はなし。

本年度の専門医認定試験実施日は、2021年9月6日（月）第165回日本獣医学会会場（酪農学園大学）で実施予定である。但し、学会中止等の状況により実施会場等の予定が変更されることがある。

## 5. 試験問題検討委員会

委員長：黒木宏二（日本たばこ産業）

委員：森松正美（北海道大）、佐々木一益（東北大）、竹内崇師（鳥取大）、奥村 浩（日本クレーア）、和田 聡（アステラス製薬）、高木善市（日本エスエルシー）、渡邊 厚（旭化成メディカル）

### 1) 委員会開催

第164回日本獣医学会学術集会の開催時に、次回委員会を開催予定。その他、必要に応じて、メールにて行う予定である。

### 2) 活動状況

2020年9月の認定試験が中止となったため、活動（認定試験問題の内容の検証作業）なし。

## 6. 学術委員会

委員長：伊藤麻里子（名古屋大）

委員：大和田一雄（岡山理科大）、佐々木宣哉（北里大）、鳥越大輔（熊本大）、加納聖（山口大）、寺田節（獨協医科大）

### 1) 委員会開催

メールにて今後のJCLAMフォーラムの予定について検討した。

### 2) 活動報告

〔第9回 JCLAMフォーラム〕第164回日本獣医学会開催の準備を行った。

テーマ：「実験動物の取り巻く環境と3Rs」

座 長：寺田節（獨協医科大学） 伊藤麻里子（名古屋大）

講演者：三好一郎（東北大）、鈴木真（沖縄科学技術大学院大学）、黒澤努（鹿児島大）

## 7. 研修委員会

委員長：木村 透（山口大）

委員：高木久宜（浜松医大、副委員長）、安居院高志（北大）、和田 聡（アステラス製薬）、今野兼次郎（ボゾリサーチ）、林元展人（実験動物中央研究所）、桐原由美子（島根大）、伊藤格（日本バイオリサーチセンター）

### 1) 委員会開催

第68回日本実験動物学会総会2021年5月19日（水）～21日（金）の間にWeb開催を予定する。

第164回日本獣医学会学術集会2021年9月7日（火）～9日（木）の間にWeb開催を予定する。

### 2) 活動報告

2020年度9月に予定していたウェットハンド研修会が新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催中止となりました。そのため、次年度以降のウェットハンド研修会の計画を立て直し、2021年度は「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」、2022年度は「III. サル類の獣医学的管理」の順番に研修を進めることと決めました。実施方式を見直し、on-line方式を取り入れる方向で検討しました。2021年度第一回研修会は講義、演習はWeb開催、実習は現地開催としました。第二回研修会は、新型コロナウイルス感染症の推移を見極め、開催地、開催方法、人員などを改



めて決めることになりました。

### 第1回：Web開催 + 現地開催（北海道大学）

開催日時：2021年5月22日（土）、5月23日（日）、5月30日（日）

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

2021年3月19日（金）午前10時から受講募集を行った。

## 8. 国際渉外委員会

委員長：黒澤 努（鹿児島大）

委員：花井幸次（沖縄科学技術大学院大学）、矢野一男（日本メドトロニック）、武井信貴子（イナリサーチ）、宮田桂司（獣医系大学間獣医学教育支援機構）、王 振吉（生理研）、内橋真悠（日本メドトロニック）、

### 1) 委員会開催

2021年1月5日にzoom会議を開催。IACLAMの進捗として、ICLAMのメンバー協会新規加入およびStrategic planについて報告した。

### 2) 活動報告

#### ①IACLAM

- ・ IACLAM 理事会への参加： JCLAM から理事として矢野先生、武井先生、花井先生が参加している。
- ・ 主な活動内容については、IACLAM の項目を参照。

#### ②その他

- ・ AAALAC の会議への参加： JCLAM は AAALAC の構成会員(delegate)であり、AAALAC の Annual Delegate Meeting(ビジネス総会)にビデオ会議で参加した。
- ・ IACLAM および AAALAC を通じて国際的な関連情報を入手し、会員に情報共有した。

## 9. レジデントプログラム委員会

委員長：安居院高志（北大）

委員：高木久宜（浜松医大）、浅野 淳（副委員長、鹿児島大）、矢野一男（日本メドトロニック）、富岡幸子（鳥取大）、小山公成（アステラス製薬）、横山政幸（武田薬品工業）、池田たまた子（新潟県保健環境科学研）、木村 透（山口大）、奥田陽（シミックファーマサイエンス）

### 1) 委員会開催及び活動報告

昨年度は JCLAM の活動が 1 年間凍結されたことに伴い、本委員会も 1 年間活動を停止した。本年度は現委員会では最後の年となるため、4 月中に Zoom で委員会を開催し、レジデントプログラム案を完成させ、9 月の総会で承認を目指します。

## 10. 将来検討委員会

将来検討委員会では JCLAM が会員の良き拠り所となり生命科学研究に大きく寄与できる集団に発展していくための議論を行い、中長期的な「めざす JCLAM 像」を策定し、その実現にむけた戦略の立案を目標としております。

委員長：高橋英機（上海交通大学）

委員：内橋真悠（日本メドトロニック株式会社）、小久保年章（放射線医学総合研究所）、加藤啓子（京都産業大学）、加納聖（山口大学）、菊月隆太（大正製薬株式会社）、高井了（中外製薬株式会社）、新美君枝（理化学研究所）、林元詩織（日本たばこ産業株式会社）

1) 委員会開催

第 163 回日本獣医学会学術集会の現地開催の中止に伴い現地での委員会開催は中止とした。  
第 68 回日本実験動物学会学術集会の現地開催中止に伴い、委員会開催はオンラインで行う予定である。

2) 活動報告

JCLAM の問題点・課題を把握するための第一段階として、総務部・委員会・ワーキンググループの取り纏めをされている先生方のご意見をアンケート形式で伺った。

**11. 認定試験ワーキンググループ**

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：長崎健一（日本食品分析センター）、廣瀬直毅（理研）、森松正美（北大）、古市達哉（岩手大）

1) 委員会開催

今年度の開催はなし。

---

---

## 特集

---

---

「まずは続けてみたら」

東北大学大学院医学系研究科大学院非常勤講師  
山添 裕之

大学を出て企業に入り、適当な時期、学位を取得して、学者として名を残すような仕事がしたいと思いましたが、1986年に企業に入って研究を始めたのはよかったです。労働組合の支部役員をすることになり、研究現場を離れて動物管理、特に施設管理ばかりやるようなことになりました。「もう名を残すこともない」とあきらめてかけておりました。そんな時に、1999年に「イギリスの受託研究機関に“動物実験をやめさせようとする人物が採用”され、“内部事情を暴露”する」事件が発生して以降、こうした活動(実験動物と企業コンプライアンス)に興味を持つようになりました。当時大変驚きました。窃盗・暴行が行われたのは本当にショックでした。被害を受けた会社が倒産の危機にさらされたのですが、この時、被害を受けた会社を責める声が多く、守る声は小さかったと記憶しています。「007の国がこんなに甘いのか」と驚いたと同時に、「自分の務め先は大丈夫なのか」と心配にもなりました。フロッピーディスクを買い込んでネットカフェなどで情報収集していたこともありました。今考えれば愚かな話です。ですが、このおかげで、時々講演に招いてもらえるようになりました。不思議なものです。

さて、それではここで、最近の動きについて少し触れたいと思います。

COVID-19が猛威を振るっていますが、昨年、アメリカでは次々と多くの大学がBusiness Continuity Plan (BCP)を発動し、緊急・重大性の低い実験から順次停止し、施設を閉鎖する事態になりました。アメリカの動物実験施設用のBCPは、20年前にはすでに災害を対象に検討が始められており(IACUC Feature of the Month Disaster Recovery: “Who ya gonna call?” - Lab Animal 31(8):27-30, 2002)、2005年にハリケーンカトリーナが大きな被害を出したことを契機に精緻化してきていましたが、昨年には、COVID-19に即応して、動物実験施設用のBCPについての講演(Pandemic Contingency Planning and Its Impact on Animal Care March 19, 2020) (Brown P. A Word from OLAW: COVID-19 guidance. 2020. Lab Animal:49:132)を開催し、IACUCがCOVID-19対応で何をすべきかを周知しています。各大学はこれらをベースにBCPを着々と進めました。こうしたスピード感はさすがアメリカだと思いました。例えば、Johns-Hopkins UniversityのBCPは、以下のサイトで閲覧することができますが、やはりわかりやすい(<https://olaw.nih.gov/sites/default/files/JHU%20Contingency%20Plan.pdf>)。

COVID-19は、動物実験施設への批判を強める役割も果たしています。例えば“COVID-19の発生により、ある大学が実験者に対して「重要でない動物の研究を中止する必要がある」と「長期的な研究は最低限度に動物の数をへらすように通知している”が、このことは少なくとも数百匹の動物の処分につながる」と批判する団体も現れました。このほか、大学の発出した文書の言葉“不要不急な実験を中止して・・・”をとらえて、“動物実験は無駄で税金を返すべき”と主張するものもあります。その後、COVID-19への対応には動物実験が必要とする主張も出てきて、相反する主張のぶつけ合い、いつものPR合戦に入りました。

しかし、何と言っても今回は感染症が発端であり、実際、「COVID-19は“かぜ”と主張するグループのリーダーがCOVID-19を発症し後悔を表明した」事例もあり、感染の拡大につながらないかなどと気にしていました。

ところが、某動物権利団体は、HPの記事の中の“Can I get a COVID-19 vaccine if I'm vegan?(ビーガンでもCOVID-19ワクチンを接種できますか?)”という問いに対して、“まず、私たちがビーガンになった理由を考えてみましょう。残酷さを最小限に抑え、動物にとって優しい世界を作るためです。科学が進歩しているとはいえ、多くの医薬品には動物実験が義務付けられており、動物にやさしい代替品が存在しない世界でもあります。倫理的な理由で治療を拒否すれば、私たちの健康が損なわれ、将来的に動物のために声を上げることができなくなるかもしれません。残念ながら、COVID-19ワクチンのために苦しい実験をさせられた動物たちを助けるには、もう遅すぎます。しかし、他の動物たちがこのような運命をたどることがないように、私たちは声を

あげ、行動を起こすことができます”と回答しています。

支持層の心配事である「ワクチン接種」に対して、巧みに手を差し伸べることで、離反を防いでいます。タフなリーダーシップには舌を巻きます。

一方、科学者団体の Speaking of Research は、3月19日の記事“A thank you and a challenge to our readers”で、「ウェブサイトがどれだけの人に視聴されているかを調査している Alexa ランキングで2011年の#2,641,005から2021年の#852,524に上昇し、動物実験に批判的な団体を上回っている」と主張し負けてはいません(<https://speakingofresearch.com/2021/03/19/a-thank-you-and-a-challenge-to-our-readers/>)。

COVID-19の猛威の中、ほかの事態も動物実験の世界を揺さぶっています。NPO動物実験関係者連絡協議会の情報配信でご存知の方も多いと思いますが、COVID-19に関連してサル動物実験が必要とする研究者と反対をする動物権利団体との間の摩擦が大きくなってきています。公に開示される情報は時としてアンチキャンペーンに利用されることがありますが、この場面ではUSDA-APHISの開示する情報は動物実験のマイナス面の根拠として何度も利用されています。また、研究用のサルの需給関係はこここのところタイトな状況で推移していましたが、COVID-19の研究のためにこれが一層厳しくなったという状況です。細胞実験ではよく使うにもかかわらず、実験動物として手に入れるのが、サルよりもひっ迫しているものもあります。日ごろから、規模の小さな研究資源にも目を配っていないといけないと痛感しています。

この1年間には、このほか、環境省の犬猫飼養管理基準の改正審議、「動物実験をダークな世界」として糾弾する本の再販、獣医学部の動物を用いた実習についての国会質問などもありました。また、愛玩動物看護師法の来年施行、多頭飼育対策ガイドライン策定なども決まり、環境省は「犬猫以外の哺乳類、鳥類及び爬虫類に係る基準についても、今後検討を進める」とのことです。この1年間、直接実験動物の飼養基準は触られなかったのですが、少なからぬ影響を受けており、今後の動きに注視する必要があると思っています。

雑多に述べてしまいました。

いまを嘆くことは多いですが、少し長い時間軸で考えてみると、案外思ったように進んでいることもあります。私は学者とは言いにくいと思いますが、それなりの成長ができたかなと思います。何と言っても、私を“東北大学の非常勤講師に”とお声掛けいただいたのは、導いてくださった先生方のおかげです。でも、ネットカフェにこもった時代や、悩んだ時代があつてこそ、また、悩みながらも情報を収集し続けていかなかったら、目にとまることはなかったと思います。「石の上にも・・・」といいますが、継続は力なのだと思います。私は今年60歳にはなりますが、現在の勤めも続けますし、もちろん、情報収集も続けます。「おい、ちょっと来い」と話す場を与えていただけるようさらに頑張りたいと思っています。

最後に、情報収集するために家族との時間を犠牲にすることが多いのが、実態です。いままでその自由を許してくれた妻子に感謝し、図々しくも“また許してね”と思うところです。

# 事務局便り

## 会費納入状況とお願い

平成 29-30 年度より、会費の額が以下に変更になっておりますので、ご注意ください。

会員：2,000 円 → 一般会員：3,000 円 学生会員：1,500 円

既に 4 年が経過しようとしていますが、これまでの会費納入に未だに過不足がある会員が見受けられます。会員 HP (<https://jalam.jp/htdocs/>) より個人の会費納入履歴が閲覧可能です。必ずお支払いの前に会員ページにログインして頂き、ご自身の納入状況についてご確認いただき（過不足についてわかるようになっております）、適正な金額を納入していただけますようお願い申し上げます。

なお、本年度の会費納入状況について、2021 年 2 月 28 日現在の会費未納者数は以下のようになっています。

- 1 年未納 124 名 (2020.8-21.7 年度会費未納者)
- 2 年未納 83 名 (2019.8-20.7、2020.8-21.7 年度会費未納者)
- 3 年未納 56 名 (2018.8-19.7、2019.8-20.7、2020.8-21.7 年度会費未納)

コロナ禍の影響で様々なイベントが中止となったこともあり、例年になく未納者が多く見受けられます。会費未納者の方には、「会費納入のお願い」メールを改めて送付させていただきますが、5 月 31 日までに下記の口座に会費を納入して頂くようお願いいたします

### (1) 郵便局振替

口座番号：00130-4-323981 口座名称：日本実験動物医学会

### (2) ゆうちょ以外からの振込

金融機関名：ゆうちょ銀行 口座番号：0323981

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019） 預金種目：当座

なお、このまま未納が続き、**3 年以上会費を滞納**されると（上記 56 名が該当）、日本実験動物医学会会則に従って本会を退会されたものとして、9 月に開催されます理事会の承認を経て退会処理（除名処分）させていただきますのでご注意ください。

○日本実験動物医学会会則 ([http://jalam.jp/htdocs/index.php?key=mufz8nnl7-1309#\\_1309](http://jalam.jp/htdocs/index.php?key=mufz8nnl7-1309#_1309))

もし特別な事情で会費を納入できない場合（事務処理に振込用紙が必要等）には、会計・事務局会計担当理事までご連絡を頂ければ幸いです。

## 〈編集後記〉

昨年はコロナ禍で学会やセミナーなどが最初の頃は中止になり、後半はリモートで対応するものが増えてきた。リモートも移動せずに職場や自宅で参加できるのは時間も節約できありがたいと感じるところである。しかし、リモートでは何か物足りない。足りないところは何かと改めて考えてみたところ、対面であれば学会会場へ向かう道すがらや休憩時間にたまたまお会いした先生との近況報告や専門分野についての質問など情報交換ができないことであることが判明した。今後、コロナ感染をよりコントロールする技術が進歩し、対面での学会開催機会が少しでも増えることを願っている。

(情報・編集委員 MI)